



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和6年8月30日

高P連全国大会茨城大会 (8/22・23) の報告です!



今年度は第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会が8月22・23日の2日間にわたって開催されました。本校からは上垣PTA会長はじめPTA役員4名と事務局から教頭1名の5名で参加しました。

8月21日に帯広空港を出発し羽田空港からは電車で茨城県土浦市へ移動しました。北海道とは違い湿度のある空気で、同じ30度でも汗のかたが違いました。土浦は宿泊だけでしたが、夕食後に鳥の鳴く声が非常に大きく、すぐ近くの木で鳴いていると思いきや、真上の電線にびっしり鳥が並んでいて、ちょっと恐怖を覚えました。(ネット情報ですが、調べてみると鳥の正体はムクドリでした)

1日目は水戸市内での分科会ですが、水戸といえば言わずと知れた水戸黄門様。今回の大会テーマは「歴史の町で変革を!!～新たな時代が目に入らぬか」というもの。私たちの世代なら皆知っている名ゼリフをもじったものわかりますが、高校生にはどうでしょうか。それはさておき、私たちが参加したのは第3分科会。講師は日本テレビ「7男2女11人の大家族石田さんち」で有名な石田千恵子さんでした。

「新・生きる力と家族の絆」～子どもの心に風邪を引かせない～と題して、自らの生い立ちから11人の子育て、そして母親の介護などについて、軽快なトークで会場の聴衆を惹きつけていきました。後半は討論者とフリートークを行い、討論者の子育ての悩みなどに的確に回答していて、その言葉は、大きな愛情をもって子育てをしていく終始一貫した言葉でした。

2日目は記念講演で、講師は二所ノ関 寛さん(第72代横



綱・稀勢の里)でした。「人材育成の不易流行」と題して、中学卒業から角界入りし新十両・新入幕を史上2位の若さで果たし、横綱白鵬の連勝を63で止めた二所ノ関親方が、現役引退後早稲田大学大学院でスポーツマネジメントを学び、親方として相撲部屋を運営して行くにあたって出した答えは、茨城県で相撲部屋を運営していくことでした。古い伝統を打ち破り、新しい価値観で人材育成を図る強い意志で、稽古時間の変更や稽古内容の見直しなど、効率を重視した指導方針で、これから多くの関取を輩出し、いつかは横綱を育てたいと話していました。引退会見で「私の相撲道において、一片の悔いもございません」と語った第72代稀勢の里らしく、これからもどんどん挑戦を続けていくことが窺える親方の講演でした。

来年度は 三重県での開催です。

教頭・沼澤圭亮

経産省主催「学校活動支援サービス&研修会in札幌」で本校の取組を発表しました



8月7日、経済産業省主催の「学校活動支援サービス体験&研修会in札幌」が開催されました。これは基調講演や民間ツール体験を通して、学校の働き方改革に対する意

識の醸成を図るとともに、教職員や教職員や教育関係者が民間ツールを活用した教育活動に対する理解を深め、業務の効率化や省力化をより一層推進する目的で札幌の他、東京、京都など全国8ヶ所で開催されたものです。

トークセッションでは道教委の中島俊明教育長、札幌市教委の山根直樹教育長とともに本校校長が登壇し、三条の働き方改革の取組を紹介しました。

本校が働き方改革推進校に指定されたのは4年前。2年間の指定でしたが、その間で取り組んだシフト制の導入と改良、コーディネーターや外部人材を活用した探究活動など働き方改革を推進してきました。特にシフト制は道内で本格的に導入したのは本校が初めて。先生方の意見をもとに、今では約半数の先生方が6パターンからそれぞれ選択していることを伝え、推進校指定が外れた後でも工夫改善を続けていることを評価いただきました。

また、札幌市の取組はICTの徹底活用で、自動採点システムの導入がされているとのことでした。大変興味深い実践で、高校でも参考になるものでした。

全国で三条魂を発揮



福岡で行われたインターハイ陸上競技は3年1組の下野那智さんが男子400mに出場。「予選敗退でしたが、陸上競技を通して、目標に向かって努力を継続し、結果を追いかけることで自分の成長につながったと感じています」と話してくれました。

岐阜で行われた総文祭には、合唱部と演劇部が参加。合唱部は圧倒的な演奏を披露し、演劇部は『つばあんとチーズ』を熱演。素晴らしい演技はもちろんですが、全国に北海道の「おやき」を存分にアピールしました。その甲斐あって(?)特別賞(カルピス賞)を受賞。おやきにはカルピスがよく合う!?

放送局はNHK杯全国高校放送コンテストに3年6組田中遼洸さんが朗読部門に出場し、残念ながら入賞は果たせませんでしたが、堂々とした朗読を披露しました。

今年も麦音イベントやりました!



3日、「麦音deフェス」が開催されました。これは当時3年生だった小谷愛実さん・倉口遙那さんが、麦音とコラボしたイベントを提案し、本校地域コーディネーターの長岡さんの協力のもと実現したもので、今年で3回目。子どもたちが店長を務める商店街やファッションショー、パン食い競走などで多くの家族連れが楽しみました。今回は14名の三条生が運営まで行い、見事成功に導きました。



夏休み中も三条生が大活躍



十勝食材でタコスはいかが?

11日、愛菜屋(芽室町)で十勝産食材を使用したタコスを提供したのは3年芦川龍之介さん、塩谷明里さん、下坂愛果さん、関井隆之さん、羽場康太さん、湯浅南美さん、下野那智さんの7人。探究のテーマとして「地元食材を使って手軽に提供できるメニューの開発」をあげ、芽室町観光物産協会や一般社団法人十勝プラス(芽室)の協力をいただき、限定100個を無料提供し、アンケートに協力してもらうというもの。当日は40分で全てなくなるという人気。芦川さんは「親身になってアンケートに答えて下さり、感謝しています。準備の甲斐あって大成功でした。」と感謝を口にしていました。地域を盛り上げるこうした試みが、将来地域を支える人材として成長してくれるものと思います。



緑ヶ丘公園の在り方を考えるワークショップ開催

16日、帯広市役所に『緑ヶ丘公園の在り方を考えるワークショップ』に3年生5名(1組の権野郁斗さん・下野那智さん・三浦寛賀さん、2組の小林咲さん、6組の工藤瑠那さん)が参加。公園の有効活用について、写真スポットづくりや、浴衣祭りなどのイベント開催など多くのアイデアを出しました。本校では今まで市役所職員とともに3年選択科目『自己表現』の中で街づくりについて探究を進めてきました。過去には米沢帯広市長も生徒たちのミーティングに参加したこともあります。今回のワークショップを踏まえて、12月には高校生の意見として最終案を市にプレゼンする予定です。



インタビュー

きりり

11年ぶりの北北海道大会に進出した野球部主将・副主将

3年2組 片山 天晟 さん 3年4組 小林 瑞 さん



夏の高校野球は京都国際高校の優勝で閉幕しましたが、本校野球部も11年ぶりの北北海道大会に出場しました。キャプテンの片山さんと副キャプテンの小林さんにお話を伺いました。

野球部を引退した今の気持ちに聞きました。小林さんは「今まで野球が日常だったので、みんなと部室で過ごすとか、そんなちょっとしたこともなくなって少し淋しい気がします。でも楽しい思い出があるだけ幸せかなと思います」片山さんは「負けた後に後輩たちに3年生が一言伝える会があるんですが、その場で3年生が皆、『最高の仲間とプレーできて良かった』と口にしてくれたことが本当に嬉しかったです」と振り返ってくれました。

自分たちのチームについて片山さんは「高校野球って監督に怒られたりとか厳しいイメージがあるんですが、本来野球をするのは野球が楽しいからで、楽しいことが練習から溢れていたチームだったと思います」小林さんも「本当に楽しい雰囲気練習できていましたし、全員が自然と同じ方向を向いて練習できた1年でした。本当に最高でした」と語り、続いて佐藤監督について「素晴らしいという言葉では表せない監督です。僕たちの疑問に対して、否定ではなく納得できる言葉で常

に正解を示してくれる監督です」僕自身、悩みとか相談することが多かったのですが、自分の可能性を与えてくれる監督です。とにかく選手第一に考えてくれる方です」と佐藤監督が聞いた泣くんじやないかと思えるような言葉が続きました。

さて、夏の大会地区予選を振り返ると、初戦の足寄戦は「今まで野球にかけてきた時間や労力を考えると本当に特別なものだったし、そのぶん楽しさもありました。そのうえ全校応援のおかげで持っている以上の力がでたのかなと思います」とは小林さん。片山さんは「足寄は練習試合で負けていましたし、去年の夏の大会にコールド負けした相手だったので、自分たちにとっては超えなくてはならない壁だったと思います。あそこで打ち勝てたから全道へ進めたんじゃないかと思います」二人とも応援が大変な力になったと感謝を口にしていました。

後輩たちに向けて片山さんは「自分たちを超えてほしいけれど、気負わずやってほしいです。自分たちの野球を追いかけてほしいです」。小林さんは家族に向けて「今まで支えてくれた家族に対してお礼を言うんですが、逆に『スバルヒンに連れて行ってくれてありがとう』とお礼で返されるんです。言葉で直接言わないんだけど、千羽鶴とか色んなところで本当に僕たちを大切にして、しっかり見守ってくれたことに感謝しかないです」。二人とも周囲への感謝を繰り返していました。

こちらこそ感動をありがとうございました。新チームにも期待しています。新人戦に向けて fight !